

教育広報

南 会

編集・発行 福島県教育庁南会津教育事務所
 発行責任者 平山 明裕
 編集協力 市町村教委連絡協議会南会津支会
 南会津郡小中学校長協議会



『雪と共に生きる只見町』

只見町教育委員会教育長

渡部 公三

只見町は、「ブナと生きるまち」、「雪と暮らすまち」、「心豊かに暮らすまち」をまちづくりの理念としています。雪は厳しい自然の象徴でありながら、この地域の生活や文化、そして教育に深く根付いています。今回、この“雪”をテーマに、改めてその価値について考えました。

雪との共存は、忍耐力や協調性を学ぶ心の育成につながります。雪に覆われる只見町では、子どもたちは幼い頃から雪と共に成長し、厳しい自然環境の中で支え合う大切さを学びます。雪掘り(雪の量が多いため“雪かき”ではなくこのように呼びます)やスノースポーツ、雪遊びを通じて、自然の厳しさと楽しさを肌で感じる経験は、都会では得難いものです。

また、雪は学びの一環としても活用されます。例えば、雪に残る動物の足跡を追うことで生態系への興味を持ったり、雪の結晶を観察することで科学への好奇心を刺激したりすることができます。豊富な雪を利用した只見ふるさとの雪まつり、

雪を活用した雪像づくりやスポーツ活動、伝統的な雪国の生活を学ぶことは、地域の歴史や文化への理解を深め、地域愛を育みます。

一方で、雪は地域の課題でもあります。豪雪による交通への影響や除雪作業の負担は日常生活に影響を及ぼします。しかし、この厳しい環境に直面することで、地域の助け合いや連帯感が強まるという側面もあります。子どもたちがこうした地域の現実を体験しながら育つことは、将来どのような社会においても適応できる力を養うことにつながります。

雪は時に日常生活に困難をもたらしますが、それを乗り越える力を与えてくれるものでもあります。只見町の子どもたちが、この雪国ならではの経験を通じて得た学びと心の強さを、これからの人生に生かしてくれることを願っています。冬が訪れるたびに、その美しさと厳しさを改めて感じつつ、雪と共に生きる只見町の魅力を次世代に伝えていきたいと思っています。



『〇〇年齢』

福島県教育庁南会津教育事務所
業務次長兼学校教育課長

芳賀 稔

56歳、32歳、27歳、これは私を表す様々な年齢です。それぞれが何の年齢を表すかわかりますか？

通常言う年齢が56歳、そして32歳は教師になってからの年齢、教師年齢です。27歳は親になってからの年齢、つまり一番上の子どもの年齢と同じになる親年齢です。32歳と27歳、一般的には、どちらもまだまだの年齢だと思いませんか？

このように、〇〇年齢を考えるようになったのには、きっかけがあります。私が新任教師として県南地区に採用された時のことです。当時私は学級経営がうまくいかず、悶々とした日々を過ごしていました。そんな時、スクール・カウンセラーのS先生と話す機会がありました。私は堰を切ったようにこれまでの様々な悩みを打ち明けました。するとS先生から、「最初からうまくいなくて当然だよ。先生は歩き始めたばかりの教師1歳だから。」と言われ、肩の力がスッと抜けたのを覚えています。講師経験もあった私は、自分が未熟な教師1歳ということも忘れ、最初からうまくやろうと空回りしていたのかもしれない

せん。まだまだ1歳、まわりの先生方に相談しながら、失敗を恐れず目の前のことにベストを尽くせばいいんだ、と思うことができた瞬間でした。それ以来、〇〇年齢という考え方をすると、謙虚に物事を考えることができたり、気が楽になったりすることに気づきました。

この考え方は、親年齢にも通じます。私には3人の子どもがいますが、27歳と親としてまだまだ未熟であるにもかかわらず、一方的な見方で考えを押しつける時があります。そんな時、親年齢27歳だから失敗しても仕方がないと自分に言い聞かせ、開き直ります。〇〇年齢の悪用ですが、気は楽になります。

32歳、27歳と未熟な年齢の私ですが、最初から成熟した教師も親もいません。児童生徒と教師としての私、我が子と親としての私、共に育て、育てられ、その中でお互いに成長していける関係を築いていきたいと思っています。

皆さんの〇〇年齢は何歳ですか？